



「夏の甲子園・100回繋ぐ始球式リレー」

2018年7月17日(火)、朝日新聞掲載記事。
今夏で第100回を迎える全国高校野球選手権大会の記念行事「100回つなぐ始球式リレー」が7月16日(月)、宮崎大会の会場にて実施されました。

宮崎県の担当として、本校の文理科3年・屋谷明唯さん(尚学館中学出身)が16日の第1試合の始球式を担当。みごとに大役を果たし、試合開始を彩ってくれました。

「始球式リレー」はこのあと、鹿児島→福岡を巡り、8月5日の阪神甲子園球場へと繋がっていきます。

つなぐボール 思い込めた一投 「始球式リレー」に高校生2人



100回大会を記念して九つの球が地方大会を巡る「始球式リレー」が16日、宮崎大会の会場であった。大分県から引き継いだ球を高校生2人が投じた。

第1試合では、「本気の夏、100回目。」で、甲子園のキャッチフレーズコンクールのグランプリを受賞した宮崎第一の屋谷明唯さん(3年)が担当。捕手の手前でワンバウンドしたが、まっすぐ

ミットに吸い込まれた。「まっすぐには投げられたけど、100点満点中50点ぐらいかな」と照れ笑いを見せた。

第2試合は、突発性難聴になりながらマネジャーとしてチームを支えた延岡の青木慎吾君(3年)が投げた。スタンドで野球部の仲間が見守る中、投じた107キロの直球にどよめきが起きた。「マウンドからの景色に感動しました。感謝の気持ちと負けてしまった仲間の思いを背負って投げました」と話した。

始球式リレーを務めた⑤延岡の青木慎吾君、⑥宮崎第一の屋谷明唯さん
＝いずれもアイビー

(松本真弥、菊地洋行)